

平成30年第11回

教育委員会定例会会議録

平成30年11月1日

平成30年第11回教育委員会定例会会議録

平成30年11月1日(木)

出席者(5名)

教育長 高部 明夫
委員 須藤 金一
委員 富士道 正尋

委員 池田 清貴
委員 畑谷 貴美子

欠席者(0名)

出席説明員

教育部長・調整担当部長
宮崎 望

総務課長 高松 真也

総務課施設・教育センター担当課長
田島 康義

学務課長 桑名 茂

学務課教育支援担当課長・指導課支
援教育担当課長・総合教育相談室長

指導課長 松永 透

田中 容子
指導課教育施策担当課長

三鷹図書館長 田中 博文

福島 健明
指導課統括指導主事

教育部理事(スポーツと文化部調整
担当部長・芸術文化課長事務取扱)

長田 猛

向井 研一

教育部参事(スポーツと文化部生涯
学習課長) 古谷 一祐

教育部参事(スポーツと文化部スポ
ーツ推進課長) 平山 寛

事務局職員

主事 能勢 亘

主事 福島 学

平成30年第11回教育委員会定例会

議 事 日 程

平成30年11月1日（木）午後3時30分開議

日程第1 議案第34号 平成30年度一般会計補正予算見積書について

日程第2 教育長報告

午後 3時31分 開会

- 高部教育長 ただいまから平成30年第11回教育委員会定例会を開会いたします。
本日の会議録の署名委員は、池田委員にお願いいたします。
それでは、議事日程に従いまして、議事を進めてまいります。

日程第1 議案第34号 平成30年度一般会計補正予算見積書について

- 高部教育長 日程第1 議案第34号を議題といたします。

(書記朗読)

- 高部教育長 提案理由の説明をお願いします。総務課長。

- 高松総務課長 では、議案第34号 平成30年度一般会計補正予算見積書についてご説明させていただきます。

こちらの議案ですけれども、12月の市議会定例会で補正予算を提案するために、市長に補正予算見積書を提出するという内容でございます。

議案資料の6ページをごらんください。歳入歳出予算見積総括表となっております。今回の補正予算ですけれども、歳出予算に208万6,000円を増額計上するという内容でございます。

7ページをごらんください。歳出予算見積概要となっております。今回の補正予算案件は1件、公用自動車の買換えに係る事業費の計上で、内容につきましては、担当課長よりご説明をさせていただきたいと思っております。

なお、この補正予算案ですけれども、今後市長査定、調整を経て確定していく内容となっております。

私からは以上です。

- 高部教育長 田島担当課長。

- 田島総務課施設・教育センター担当課長 では、7ページの歳出予算見積概要についてご説明をいたします。

総務課施設係で管理している自動車で、小・中学校の施設の管理・営繕・保全業務等で使用しているものでございまして、老朽化に伴い、更新のための予算を平成30年度12月補正予算として提出するものでございます。

公用自動車の購入、更新に当たっては、企画部において全庁的な優先度、必要性を鑑みながら、各年度予算計上を行っているところでございます。施設係の自動車については、平成13年5月に初年度登録を行った自動車でございます。既に17年が経過しております。また、走行距離は平成30年10月時点で4万4,000キロ程度と、老朽化が進んでおりますが、平成30年度当初予算編成の中では、全庁的な調整の中で更新が見送られた案件になります。

このたび、電気自動車の導入に係る経費について、東京都の交付金の支援が得られるようになったことから、財政課等の関係部署と調整する中で、補正予算計上により本年度中に更新を行いたいと考え、補正予算見積書を提出するものでございます。

なお、財源としての交付金の歳入予算につきましては、企画部所管となりまして、市長部局において調整、計上されるものとなります。

私からは以上になります。

○高部教育長 以上で提案理由の説明は終わりました。委員の皆様の質疑をお願いいたします。よろしいですか。

それでは、私から二つ。補正額は208万6,000円なんですけれども、東京都の交付金を活用するという事なんですけど、東京都の交付金がどのぐらいの補助率なのか、10割補助なのか、一般財源が若干必要になるのか、そのことが一つ。

それから、今回、電気自動車への買換えを進めるための財源が東京都の交付金として確保されたということなんですけれども、交付金を活用して電気自動車の促進を進める狙いというのは何ですか。東京都のほうで示されているものがあれば、今この時点で交付金を活用して電気自動車を広める、オリパラのこともあるのかもしれないけれども、その背景というのがわかれば教えてください。

田島担当課長。

○田島総務課施設・教育センター担当課長 まず、補助金の率ですけれども、今回の自動車購入費につきましては10分の10の補助率としていただいているところです。ただし、自動車の車両本体のみが対象ということですので、三鷹市においては、公用自動車についてはドライブレコーダーを導入しているところなんですけれども、そういうような備品ですとか、自動車のリサイクル料ですとか、車体のサインなどについては別途予算措置が必要と聞いております。

狙いですけれども、今回導入するものについて言うと、満充電で75キロほど走れるような電気自動車になるんですけれども、電気代が313.28円という試算でして、1キロ当たり大体4.1円程度ということで、経費的にも非常に安く収まるということと、ガソリンは使わないということで温室効果ガスの削減にもつながるという点から、まだ価格は高いものですから、市独自で全体のガソリン車を電気自動車にしていくということはなかなか難しい面はありますが、こういう機会を捉えながら、環境に優しいものを導入していきたいという考え方です。

○高部教育長 総務課長。

○高松総務課長 少し補足させていただきますと、後段の東京都としての狙いですけれども、もともと市町村を支援する総合的な交付金のような仕組みがございます。その中で、都と市町村が連携して取り組む政策課題への取り組みを支援する枠組みというのが今年度検討されてきたという状況でございます。その枠組みの中の一つに電気自動車の導入というメニューがございます。環境に優しい自動車の導入促進ということで、政策誘導的な狙いがあると考えております。

○高部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○富士道委員 ちなみに、市全体として電気自動車は何台ぐらいあるんですか。

○田島総務課施設・教育センター担当課長 実証実験として無償貸与を受けて保有していた実績などがあります。今回は、教育委員会で1台、市長部局で1台ということで、2

台分の補正予算を組む予定にしております。

○富士道委員 それにかかわって、充電設備というのは当然あるんですよね。

○田島総務課施設・教育センター担当課長 充電設備につきましては、元気創造プラザの地下にございまして、急速充電器が1基と、普通充電器が2基あると聞いております。

基本的には、普通充電器で午後5時半から翌日午前8時45分までの間で充電をすると聞いてございまして、満充電で75キロ程度走れるということなので、週に1回程度、夜に充電を始めて翌朝に戻すといった運用をしたいと考えているところです。

○高部教育長 ほかによろしいですか。

ほかにご質問、ご意見等がなければ、採決いたします。

議案第34号 平成30年度一般会計補正予算見積書については、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○高部教育長 ご異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

日程第2 教育長報告

○高部教育長 引き続き、日程第2 教育長報告に入ります。教育部長。

○宮崎教育部長 それでは、私のほうからは、10月11・12日の2日間にわたりまして市議会文教委員会の管外視察に随行してまいりましたので、その報告をさせていただきます。

視察先でございませうけれども、岐阜県岐阜市と香川県高松市に行つてまいりました。両市とも県庁所在地であり、中核市に移行している市でございませう。両市とも市制施行から130年弱、人口40万人を超えて、一般会計の予算規模も1,500億円を超えるということで、三鷹市の倍を超えるような歴史と規模があるという市でございませう。地方交付税交付団体であるという点もありまして、参考にできることばかりではないと思ひませうけれども、参考になる点も多々ありましたので、ご報告させていただきます。

まず、1日目の岐阜県岐阜市の視察でございませうが、カラー版のA3判の視察のしおりをごらんになっていただきたいと思ひませう。複合施設みんなの森ぎふメディアコスモスを視察してまいりました。その中には市立中央図書館がございませうので、三鷹市でも取り組んでいる滞在型図書館としての先進的な取り組みの視察を行つてまいりました。

中をお開けいただきまして、施設概要がございませう。施設のコンセプトでございませうけれども、知の拠点、これは直営の図書館でございませう。それと、絆の拠点、これは市民活動交流センターと多文化交流プラザ。さらに、文化の拠点としまして、ホール、展示ギャラリー、オープンテラス。そういった三つの拠点から成る、公共施設、社会教育施設の複合施設でございませう。

経緯のところもございませうけれども、平成27年度に開館をしたということでございませう。地上2階、地下1階ということで、延べ床面積が1万5,000平米を超える施設でございませう。主な用途としては、中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリー、ホールとなっております。

総事業費としましては、3のところに事業費がございしますが、125億円ということでございます。

来館者数につきましては、右のページの施設利用状況にございます。年間130万人、平日約3,000人、休日約5,000人ということで、もともとあった施設に比べると8倍以上、新規図書館登録者数も3万人を超えて33倍になったということでございます。貸出利用者の年齢層は、40歳以下の割合が3割から5割超になったということでございます。

中に挟み込まれております報告書をごらんいただきたいと思っております。図書館長の吉成信夫さんは、民間公募によって就任したということでございます。

1枚めくっていただきますと出ておりますけれども、中央図書館を中心に多様で多彩な事業を実施しております。特に複合施設ということで、そのメリットを生かした他部署との連携による事業を実施しているかということについて質疑をしております。複合施設としての他部署との連携について、開館周年イベントについてはそういった形で実施してはございますけれども、図書館主催のイベントは図書館のみで企画、運営をしているということでございました。三鷹市立図書館も多種多様な事業を展開しておりますけれども、複合施設ということではなくて、市内の他部署や図書館サポーターとの連携、協働で行っているところが三鷹の特徴であるのではないかなと感じたところでございます。

その他、図書館と市立小学校の学校図書館をつなぐシステム連携を実施しているということでございますが、学校図書館の地域開放は行われておらず、学校の児童のみの利用となっているということでございました。また、学校連携室というものを中央図書館の中に置きまして、さまざまな連携事業をやっております。

以上が1日目のみんなの森ぎふメディアコスモスの視察内容でございます。

続きまして、2日目は、学校における働き方改革ということで、高松市教育委員会の取り組みを視察しました。今日お配りしております資料が二つございますが、「学校における働き方改革と業務改善について」と「高松市教育委員会 教職員の働き方改革プラン」、そちらを参照していただきたいと思っております。

高松市を視察先として選んだのは、三鷹市と同様に小・中一貫教育とコミュニティ・スクールを実践しているというところで選んだということでございます。教職員の勤務状況調査を独自にやったということでございました。

簡単に高松市の小・中一貫教育とコミュニティ・スクールについて触れさせていただきますと、小・中一貫教育につきましては、施設一体型で、二つの中学校と三つの小学校を統廃合して、義務教育学校としてではなくて、三鷹と同じように中学校併設型小学校、小学校併設型中学校として実施しております。コミュニティ・スクールにつきましては、法制度にのっとったものではなくて、高松型コミュニティ・スクールということで、法制度上のコミュニティ・スクールに類似した前段階の状況でございます。

お手元の「学校における働き方改革と業務改善について」という資料をごらんください。1枚めくっていただきますと、3ページに、独自で実施した教職員の勤務状況調査の内容が出ております。小学校49校、中学校24校の教職員2,000人余りに実施した調査で

ございます。

4ページから6ページに結果が出ておりますけれども、平日1日当たりの学内勤務時間は、国や東京都や三鷹市を上回るような状況でございました。高松市では、過労死ラインについて平日の在校12時間という設定をしております、国や東京都や三鷹市では11時間という設定がありましたが、その点が特徴的でございました。

また、7ページから9ページに、放課後・時間外の業務内容でありますとか、土・日の勤務日数や業務内容が出ております。

そういった調査結果をもとに、業務改善の具体的方策を10ページのとおりまとめてまして、11ページにありますように、「勤務時間を意識した働き方の推進」、「勤務環境整備のための支援の充実」、「ICT活用による効率化の推進」という三つの柱にまとめています。

それをもとに、もう一つの資料にございます「高松市教育委員会 教職員の働き方改革プラン」を平成30年4月に策定しております。その中では、目的を「教職員の心身の健康を保持し、教員が教育の専門職として、これまで以上に子どもの指導に専念できるようにするため、長時間労働の解消を図ります。」としまして、目標を「時間外勤務が月80時間を超える教職員をゼロに。すべての教職員が、時間外勤務を25%以上削減」と設定をしているところでございます。また、その実現のための基本的方向としまして、「業務の適正化」、「業務の効率化」、「学校運営の改革と意識改革」の三つの柱を定めております。

1枚めくっていただきますと、「業務の適正化」というところでは、まず一つ目に、三鷹でも同様に配置しておりますけれども、専門スタッフの配置。二つ目の運動部活動等講師派遣事業は、運動部活動の方針等はまだ定まっていない状況で、独自の事業ということでございます。三つ目は留守番電話の設置。四つ目の地域人材の積極的な活用というところでは、高松型コミュニティ・スクールで地域の人材を活用しているということでございました。五つ目は、キャリアステージに応じた研修体制の見直し。以上が「業務の適正化」の五つの項目です。

右側のページ、「業務の効率化」に向けましては、校務支援システムの活用、それから、TENSクラウド外部接続システムといたしまして、自宅で勤務をするような職員には外部からシステムにアクセスして情報を活用できるようにするというところで、そういう活用が特徴的でございました。あとは、ICTの活用ということで、電子黒板等も導入しているということでした。

最後のページですけれども、「学校運営の改革と意識改革」というところでは、保護者・地域住民への理解促進、それから、ICカードによる出退勤記録はもう始めているとのこと。また、部活動休養日の拡大について、こちらが三鷹と比べると少し少ないかなというところで、三鷹では平日4日、土・日4日ということですが、高松市では第1・第3日曜日と平日2日の4日間ということ、この辺りが国の方針になかなかそぐわないということがございます。あとは、学校閉庁日を3日間やっているところでございます。

今後の課題としましては、人財の確保としまして、教員の不足ということとスタッフの配置・拡充、予算の確保としまして、国や県の補助事業継続ということを挙げておりまし

た。

そういったところで、効果については検証中ということでございましたので、それについて再度調査をかけるということでございました。ただ、調査項目に関しましては独自の調査なので、国や都道府県との比較が難しいという点がございました。

以上、岐阜市と高松市の視察に随行しましたので、図書館運営や学校における働き方改革の参考になればということで、反映させていきたいと思っております。

以上でございます。

○高部教育長　ご質問については、後ほどまとめてお伺いしたいと思います。

報告を続けてください。総務課長。

○高松総務課長　では、各課から報告をさせていただきます。

議案資料の10ページをごらんください。まず、総務課でございます。10ページの実績等報告につきまして、中ほど、10月12日に東京都市町村教育委員会連合会の管外視察研修、また、一番下段ですけれども、10月30日に同連合会の第4ブロックの研修会が開催されまして、いずれも畑谷委員にご参加をいただいたところでございます。ありがとうございました。また、10月15日に第七中学校、24日には第五中学校の教育委員会学校訪問を実施したところでございます。

右側、11ページの予定等報告ですけれども、11月12日に市議会の文教委員会が開催される予定でございます。行政報告としまして、この後指導課からご報告をさせていただきます全国学力・学習状況調査の結果などについて報告を行う予定としております。

以上でございます。

○高部教育長　続いて、田島担当課長。

○田島総務課施設・教育センター担当課長　私からは、教育センター、施設関係についてご説明をします。12ページ、13ページをお開きください。

学校施設関係については、長寿命化改修工事につきまして、外周りの改修を最終的にやっているところでございます。引き続き教育活動に影響がないように配慮しながら進めてまいります。また、老朽化対策調査につきましては、学校現場の確認を年内をめどに実施しているところでありまして、最終的に年度末をめどに調査結果をまとめていきたいと考えているところです。

教育センター関係につきましては、科学発明教室の最終回である4回目を11月3日土曜日、24日土曜日という形で行う予定にしております。

私からは以上です。

○高部教育長　学務課お願いします。

○桑名学務課長　学務課でございます。14ページ、15ページをごらんください。

10月29日の第2回学校給食調理業務委託業者選定審査委員会でございます。平成31年4月から新たに給食調理業務の委託を予定している第四中学校と、委託開始から5年目の更新時期を迎える第六小学校、北野小学校、第六中学校の事業者選定にあたり、1次審査で選定した6事業者の2次審査、プレゼンテーションを実施いたしました。

予定等報告の11月7日でございますが、第3回の選定審査委員会におきまして、企画

提案書、経営状況、プレゼンテーション、見積金額の評価から、候補者を決定いたします。その後、庁内の競争入札等審査委員会でプロポーザルの審査結果を報告し、承認を得た上で、事業者との契約締結をする予定でございます。

その他については、記載のとおりでございます。

○高部教育長 指導課お願いします。

○松永指導課長 16ページ、17ページをごらんください。

実績等報告です。10月5日から7日、修学旅行で第二中学校が京都・奈良方面へ出かけ、これで市内の全部の中学校の修学旅行が無事に終了したということでございます。

10月13日土曜日ですけれども、中学生の意見発表会が生涯学習センターで行われました。畑谷委員、富士道委員にご出席いただきまして、ありがとうございました。7人の子どもたちが、各中学校を代表して、中学生らしい意見の発表をさせていただいたところでございます。

17ページ、今後の予定についてです。11月7日ですけれども、公立学校PTA連合会合同研修ということで、公会堂光のホールにて、神戸市のPTAを改革されたという元PTA会長と当時の校長先生に来ていただきまして、「学校を元気に！親子で得するPTA活用術」ということで講演会を実施する予定でございます。

11月16日金曜日、学園長会議もごございますけれども、その後、第2回三鷹市いじめ問題対策協議会を実施いたします。ここでは、連雀学園で行われました、いじめに関することをテーマに子どもたちが熟議をしたことについての報告をさせていただく予定でございます。

11月17日土曜日ですけれども、連雀学園、東三鷹学園、おおさわ学園の開園10周年の記念式典がございます。12時15分受付開始、13時から式典がスタートするという予定になっておりますので、ご出席方よろしくお願ひしたいと思います。

こちらの報告事項については以上でございますが、平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果につきまして、別に資料をお配りしておりますけれども、そちらをもとにご説明をさせていただきたいと思ひます。

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生・中学校3年生の全児童・生徒を対象とした国の悉皆調査となります。全国の小・中学校約3万校、約200万人の児童・生徒が参加し、三鷹市では全22校、2,337人の児童・生徒が参加をいたしました。実施日は、平成30年4月17日です。

調査内容は、例年の国語、算数・数学、学習状況に関する質問紙調査に加えて、今年度は理科も実施しています。本調査は、国語、算数・数学につきましては主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」に関するB問題の2種類を出題しています。理科に関しては、A・Bの区別はございません。

A問題の主として「知識」に関する問題とは、身につけておかなければ後の学年での学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心として出題された問題です。B問題の主として「活用」に関する問題とは、知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力や、

さまざまな課題解決のための構想を立て、実践し、評価し、改善する力などにかかわる内容を中心として出題された問題です。

なお、本調査で測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であるということにご留意いただければと思います。

1枚目をごらんください。三鷹市立小学校の調査結果をまとめたものになっております。小学校全体の傾向ですけれども、三鷹市の平均正答率は国語、算数ともに東京都の平均、全国の平均と比較して上回っており、学習状況は水準以上であると言えます。平均正答率の数値では、三鷹市は東京都や全国と比較して著しい課題等は見受けられませんが、設問別の分析によると、東京都や全国において正答率の低い設問は、やはり三鷹市においても同様に低いという共通した傾向が見られました。

別にとじてある、「平成30年度全国学力・学習状況調査（文科省）で最も正答率の低かった問題」という資料がございますけれども、こちらの算数Bのところをごらんいただけますでしょうか。5ページの下の段になります。例えばということで、こちらですけれども、左側が「『進んであいさつをする』に『取り組んだ』と答えた人数（12月）」、それから右側が「『進んであいさつをする』についての割合（12月）」ということで、人数と割合のグラフになっています。これは、1・2年生と3・4年生と5・6年生では、学年の児童数が違うといったところがあるわけで、これを読み取る力がどうあるのかといったことを問う問題です。

「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数が一番少ないのは、さあ何年生でしょうかという問題で、人数ということ言うと、左側のグラフ1のほうに出ているものを見ればわかるということです。これは1・2年生ということなんですけれども、続けて、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合が一番小さいか大きいかわかるという問題になっています。見ていけばそんなに難しい問題ではないんですけれども、問題文を読み取る力といいますか、テキストをきちっと読み取れるかといったところが試されている問題なのかなと考えているところです。

この問題については、三鷹市では35.3%が正解、東京都では29.2%、全国では23.9%ということで、大分厳しい状況があるのかなというところがあります。三鷹市でも35.3%というのは決して高い数値ではありませんので、こういった部分の読み取りというのはやはり重要なのかなと考えているところでございます。

正答率の低かった問題については、こちらの資料のほうにまとめてございますので、後ほどごらんいただければと思います。

続きまして、1枚めくっていただきまして、三鷹市立中学校の調査結果になります。三鷹市の平均正答率は、こちらも小学校と同様、東京都や全国の平均と比較して上回っており、水準以上とは言えるかなと考えているところです。また、こちらも東京都や全国での正答率の低い設問は、やはり三鷹市においても同様であるという傾向が見られました。こちらも、先ほどの資料に例として示させていただいておりますので、後ほどごらんいただければと思っています。

次のページになりますけれども、経年変化といったところでグラフを見ていただければ

と思います。小学校の平成28年度から平成30年度の平均正答率の比較をしております。本資料は、三鷹市の平均正答率が東京都と全国の平均正答率をどの程度上回ったかを示しているものです。なお、全科目において、三鷹市の平均正答率は東京都と全国の平均正答率を上回っています。問題の難易度はその都度変わる、異なるため、一律に比較することはできませんけれども、過去3か年ともほぼ同じ傾向であることがわかります。平成30年度は、小学校では、国語Aは全国との比較で7.3ポイント上回り、国語Bは6.3ポイントと、これから求められる学力である活用能力を問うB問題よりもA問題のほうが高かったということになっています。算数もほぼ同じ傾向を示して、算数Aは8.5ポイント、算数Bも8.5ポイント全国を上回る数値を示しました。

次ページをごらんください。こちらは、中学校のデータになります。中学校では、国語Aは全国との比較で2.9ポイント上回り、国語Bは4.8ポイントと大きな差は見られませんでした。上回りの幅がちょっと減ったかなといったところが気になっているところでございます。数学につきましては、数学Aは6.9ポイント、数学Bは7.1ポイント全国を上回っており、国語よりも上回り方は大きくなっています。

小・中学校とも、基礎的、基本的な知識の理解と、技能の活用を図る指導の成果があらわれていると分析しており、基本的には良好な結果となっています。「三鷹『学び』のスタンダード(学校版)」でも意識して授業改善に努めている思考力、判断力、表現力の育成を重視した指導の成果があらわれているものと考察しています。特に、算数・数学については、全学校で習熟度別指導を行っておりますが、一人ひとりの習熟に応じた指導の効果もあらわれていると考えています。しかしながら、東京都や全国の結果と同様に、正答数の分布につきましては幅が広いといったところが課題としてあらわれております。今後は、より丁寧な個に応じた指導の推進を進めていきたいと考えているところです。

次のページをごらんください。こちらは質問紙調査です。質問紙調査とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関して調査をしたものです。こちらには、「三鷹『学び』のスタンダード(家庭版)」に関連のある項目について経年でご報告をさせていただいています。朝食を毎日食べているか、それから、家の人とは学校での出来事について話をするか、毎日同じぐらいの時刻に寝ているか、また、同じぐらいの時刻に起きているか、そして、読書について、それから、学習の時間についてという項目についての報告になります。おおむね東京都や全国と比べても大きな差というのは見られないんですけども、基本的に小学校については良好かなと考えているところです。

しかしながら、朝食を毎日食べていますか、1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか、1日当たりどれぐらいの時間勉強をしますかの項目については、小・中学校とも東京都や全国をほぼ上回ってはいるんですけども、中学校においては、就寝、起床時間が決まっている生徒が東京都や全国より下回っていること、また、朝食を毎日食べている生徒に減少傾向が見られたことが気になります。こういった点について、コミュニティ・スクール委員会やPTAと情報共有し、「三鷹『学び』のスタンダード(家庭版)」の実効的な活用を通して、改めて家庭と連携した取り組みの強化を図ってまいります。

これらのさまざまな調査の結果についてですけども、まず、授業改善推進プラン等へ

の反映をさせることで、結果を踏まえた授業改善の計画作成を全ての学校で行っております。これについては、既に学校から提出していただいたところです。さらに、各校が編成をしております平成31年度の教育課程に反映させていくといったことを進めてまいります。

あわせて、「三鷹『学び』のスタンダード」をもとに、各学園で児童・生徒の実態を踏まえた学園スタンダードの策定を進め、家庭学習を含めた望ましい学習習慣について、学校、家庭、地域が一体となって学力向上を推進する実効的かつ総合的な方策を各コミュニティ・スクール委員会で議論し、各児童・生徒及び各家庭に示すように今進めているところで、これをより実効的にしていくというのが今後の課題かなと考えているところです。

以上で平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果についての報告を終わります。

○高部教育長 次に、図書館をお願いします。

○田中図書館長 図書館でございます。まず、18ページをごらんください。テーマ図書と展示でございますが、市立図書館と高齢者支援課の共催で、認知症について理解促進を進めていくということで取り組んだところでございます。認知症の理解促進のためのパンフレット、また、パネル展示、関連図書の紹介をするとともに、三鷹市で取り組んでいる「認知症にやさしいまち三鷹」の取り組みをPRしたところでございます。

イベントでございますが、10月につきましては、第7回「わん！だふる読書体験」を2回開催し、一日体験版として17人の子どもたちに参加をいただいたところです。新たな読書の楽しさを伝えていく事業として、保護者からのアンケートのコメントでも、よい体験ができたということと、子どもの成長を感じているということの多くのコメントをいただいたところでございます。また、こちらの事業の取り組みですが、11月6日火曜日、NHK「ニュース シブ5時」で午後5時35分頃から、「わん！だふる読書体験」の事業の紹介をしていただける予定となっております。

19ページをごらんください。今後の予定ですが、イベントでございますが、席上に配付をさせていただいております、こちらの第5回図書館フェスタのチラシをごらんください。平成26年の市立図書館開館50周年を記念に始まりました、三鷹市立図書館の本館で行います図書館フェスタですが、三鷹図書館サポーターとの協働による事業となっております。ごらんのように、いくつものイベントを図書館の中で開催をすることによって、本を通じて人とつながる、新たなコミュニティをつくる場としての図書館の活用についてご紹介をしながら、新たな読書との出会いと、人とのつながりを深めていくという事業で、11月3日土曜日に開催をさせていただきます。

中段でございます11月16日金曜日には、第24回おとなが楽しむおはなし会を、駅前コミュニティ・センターで午後7時から開催をいたします。こちらは、読み聞かせ等の活動をしているボランティア団体2団体と、三鷹市文庫連絡会、市立図書館の共催で開催をさせていただきます。

また、11月23日金曜日ですが、席上にチラシを配らせていただいておりますが、南部図書館が開館5周年を迎えるにあたりまして、恒例となっておりますみんなみフェスタを開催いたします。こちらにつきましては、パートナーシップ協定を結んでおりますアジ

ア・アフリカ文化財団との共催、また、みんなみサポーターとの協働ということで事業を実施いたします。南部図書館は、アジア・アフリカ文化財団との協働で、アジア・アフリカ語学院の留学生との交流イベント、また、同財団のネットワークを使った特色ある講演会を実施しているところですが、今年度につきましては、ハングル習字の体験、バリ島の影絵人形芝居を開催するとともに、留学生の協力によるまなびてらすでのカフェサービスなど、多様な取り組みを行いながら、多くの利用者の方に図書館の魅力を伝えていく事業となっております。

最後に、11月20日火曜日から22日木曜日に、三鷹駅前図書館において、年1回行っております蔵書の棚卸しの点検を実施することに伴いまして、臨時休館させていただきます。

図書館からは以上でございます。

○高部教育長 スポーツと文化部お願いします。向井部長。

○向井教育部理事 スポーツと文化部については、20ページ、21ページになります。

初めに、文化施策について報告をさせていただきます。20ページの中ほど、10月17日から21日の5日間、三鷹市大沢にございます中近東文化センター附属博物館において、三鷹市民特別公開が開催されました。同博物館は、中近東地域の歴史的に重要な収蔵品などを展示しており、通常は予約制で有料なのですが、この期間は三鷹市民の皆様により予約不要、無料で鑑賞していただける機会となりました。期間中、212人の三鷹市民の方に来館いただきました。館の担当者に確認したところ、大人と子どもの区分しかしていないということだったんですけれども、子どもの来館も13人あったとのことでした。

次に、10月27日土曜日ですが、第65回三鷹市市民文化祭の開会式が開催されました。21ページの11月25日に閉会式の記載がありますが、約1か月間にわたり、公会堂光のホールや芸術文化センターなど、市内の会場で市民の皆様による様々な展示や発表が行われます。市民文化祭では、短歌や俳句の発表などで小学生の参加があり、また、中学生についても、茶道吟という、詩吟を吟じている間にお点前をするといったものの発表もある予定でございます。

次に、21ページ、行事予定からもう1点、11月24日土曜日ですけれども、本年4月5日に亡くなりましたアニメーション映画の監督で、三鷹の森ジブリ美術館を運営いたします徳間記念アニメーション文化財団の理事も務められていた高畑勲さんの追悼映画上映会を公会堂光のホールで開催いたします。当日は、映画の上映に先立って、スタジオジブリの関係者の方に高畑監督や作品についてお話をいただき、その後に、高畑監督の2013年の作品「かぐや姫の物語」を上映する予定です。

私からは以上です。

○高部教育長 古谷課長。

○古谷教育部参事 生涯学習課長の古谷です。

20ページの行事实績をごらんください。10月6日から8日にかけて、大沢の里水車経営農家の特別公開を実施しました。3日間で279人ほどにご参加いただいております。

また、9日から16日にかけて、考古学展示会「三鷹の縄文 さわれる展示」ということで、おおむね1,000人以上の見学者にお越しいただいています。また、13日には、それに伴った講演会を実施しております。

22日から11月2日にかけて、大沢の里古民家の一般公開の直前展示会を本庁舎1階ホールで実施しました。

10月27日の文化財講演会「逝きし世の面影を集めて」では、国際基督教大学名誉教授のウィリアム・スティール先生をお呼びして、国際基督教大学内の泰山荘にある一畳敷について、松浦武四郎の生誕200年ということにもちなみまして、三鷹と明治時代の関連について講演をいただきました。さらに、三鷹市野崎に住んでいた自由民権運動の指導者で、お医者さんでいらした吉野泰三についての事例も紹介し、お話をいただいたところです。

また、15日には文化財保護審議会、16日には生涯学習審議会、20日には生涯学習センター利用者懇談会を実施しました。

行事予定ですが、教育委員の皆様にもご案内を差し上げているところですが、11月4日に大沢の里古民家の開館記念式典と一般公開開始を予定しています。式典が午前10時からということで、その後、内覧会を実施いたしまして、午後1時から一般公開を開始する予定でございます。古民家では、毎週おおむね土曜日に講座等を開きまして、市民の皆様にお越しいただくような工夫をしていくという予定になっております。

私からは以上です。

○高部教育長 平山課長。

○平山教育部参事 まず、行事実績ですが、20ページです。10月7日、2018みたかスポーツフェスティバルにおきましては、教育委員の皆様が開会式等ご出席いただきましてありがとうございます。来場者数ですけれども、2万3,000人の方をお迎えいたしまして、去年は2万人でしたので、3,000人ほど多くの方に、お天気もよく、親子連れも多く、楽しく過ごしていただいたと考えております。中学生にもボランティアとして、一中、二中、四中の中学生22人にご参加いただいたところです。

アンケートをスタッフにとらせていただきました。年代別の10代の欄にチェックをいただいた方、おそらく中学生のボランティアに回答していただいたと思うんですが、12人の方からご回答いただきまして、ボランティアに満足しているかというところですか、次回も参加したいですかという質問につきましては、全員が満足ですという項目と、次回も参加したいという項目にご回答いただきました。自由記述におきましては、楽しめたですとか、非常に歓迎してもらえたといった記述がありました。ただ、スタッフ同士の連絡が不十分ではなかったかというご感想をいただいた方もいらっしゃいます。

そして、10月13日と23日ですけれども、東京オリンピック・パラリンピックのボランティアの関係の説明会を2回実施したところがございます。こちらは、対象としては、2020年4月時点で18歳以上の方ということでございます。市として三鷹市推薦者という枠を都市ボランティアにおいてはいただいております、そういったところでご応募いただいた方に、今後三鷹のボランティアでもご活躍いただきたいということで、積極的

に進めているところでございます。残念ながら出席者は13日が18人、23日が29人というご出席でございました。三鷹市推薦者としては、現在のところ11月9日までの締め切りで募集を続けているところでございます。全体の締め切りとしては12月5日というところでございますので、期間を延長して三鷹市の推薦枠も12月5日まで募集できないかどうか、東京都と交渉しているところでございます。

そして、最後に、21ページの11月25日の三鷹市民駅伝大会でございます。こちらは、200チームが参加いたしまして、中学生のチームにつきましても28チーム参加いたします。

中学生のボランティアにつきましても、現在学校に希望を伺っているところでございまして、現在二中から4人、ボランティアをしたいということで伺っているところでございます。昨年は、一中と五中合わせて7人ということでございましたので、もう1校ぐらいお声をかけていただけるかなと考えているところです。内容としては、表彰式の補助ですか、アンケートの配布、回収等をお願いするところでございます。

また、今回、第一中学校の美術部にポスターを描いていただきました。13人に描いていただきまして、1枚をメインのチラシ、ポスターで使わせていただいているんですが、当日表彰式等で使うバックボードにはお描きいただいた絵を全て使わせていただいて、中学生の皆さんの今後のモチベーションにつなげていただければと考えております。

当日ですけれども、トライアスロン選手で、アジア大会、日本選手権でも今年金メダルをとりまして、現在日本ランキングで1位の高橋侑子選手も参加者と一緒にご出場いただけるということでございます。高橋侑子選手関係で申し上げますと、11月10日、11日と農業祭がございまして、11日の午前9時45分から応援イベントを開催するというところでございますので、あわせて情報提供させていただきます。

以上です。

○高部教育長 以上で報告は終わりました。委員の皆様の質疑をお願いいたします。富士道委員。

○富士道委員 先ほどの学力調査の結果について、2点お伺いをします。

1点は、この調査の結果がそれぞれ出ているわけですが、学園内で小・中学校の先生方がそれを持ち寄りながら、それぞれの課題、そして、それを今後どうクリアしていくのかというような、小・中の連携の部分での検討の機会というのはあるのでしょうか。

○高部教育長 指導課長。

○松永指導課長 データそのものを持ち寄ってということをやっている学園とやってない学園がまだあるかなと感じています。学園研究会で頻繁に教員同士が教科等部会で分かれてやっているところについては、これについての検討というのを実際やったところもございます。また、テーマが違っていると、なかなかそこがうまく合致しなくて、これに向かってといったことでできていないところもあるんですけれども、基本的には、教務主任等の間で情報の交換をしながら、どこがどう課題なのか、また、学校での取り組み、学園でこうしていこうかといった形のことについては、話は進めているところです。

○富士道委員 小・中学校といっても、結果的には小学校に上がった子どもたちがほと

んど同じ学園内の中学校に行く。つまりそれは、小・中学校で同じようなスキル、そして、同じような目標を持ちながら、統一した教え方なり含めてやっていくことで、学園全体の学力というのは向上していくのかなという思いがあります。今のお話ですと、やっているところ、やってないところと多少温度差と申しますか、あるようなことをお聞きしましたので、ぜひこれは課題として検討していただければと思います。

もう1点なのですが、先日ある中学校の授業を見せていただいて、校長先生にはお話をしたんですが、授業をやるときに必ず黒板にその時限の目標、小学校で言うところのめあてというのを書いて、この時間はこんなことをやるんだよ、これが最終的なみんなの今日の到達目標だよというのを明確にしてやる。学力調査の中での教員の調査項目にそれが確かあるはずなんですね。そこで、そういうことをやっている、また、それを受けた子どもたちについてクロス集計をすると、当然のごとく学力が高いんですね。ということは、つまり、1コマ1コマの授業でそういうことを明確にやるということは、学力を上げていくベース、基礎、基本になるんだろうと思います。

文部科学省は、それを考えてそういった調査をしているわけですが、授業を見せていただいた学校では、書いていらっしゃる先生と書いていらっしゃらない先生がいて、それは一つの学習のスタンダードというよりは、教員側の指導のスタンダードで、どこに行っても同じことをやっているというのが必要なのかなと。そういう点でも、今後これも一つ大きな課題になろうかと思いますが、そういうことが解消できるような検討をお願いしたいと思います。

○高部教育長　先日、五中の学校訪問の中でも、今言われたことを検討するようにということで総括したと思うんですけども、五中では英語とか数学に課題がある、とすれば、小学校との連携というのはどうしているんですかと。中学校1年生になって初めて学力が落ちているわけではない、問題を抱えているわけではない、既習事項の小学校段階はどうですか、三鷹の小・中一貫のメリットを生かしてくださいというお話をしましたよね。だから、学園研究という三鷹の小・中合同でやるよさもあるので、学力調査という貴重な題材、データを生かして、そういう指導の方法の連続性、統一性というのをぜひ図ってほしいということ。

あと、先ほど言われたように、目標、狙いについても、いみじくも五中へ行ったときに4校時目の授業が1年から3年まで全て道徳だったんですよ。それを比較すると、ある学年ではちゃんと目標というのを黒板に板書して、絶えずそういうことを意識させながら学習しているのに、学年によってはそういうことがなくて、何のために自然とのふれあいとか畏敬とかを道徳で学ぶのか。単なる思い出づくりではないのに、ふるさとがどうして道徳につながっているのかというところが途切れてしまって、きわめて分析的、段階的な指導になってしまっているんですよ。だから、絶えず目標、めあての焦点化というか、もちろん授業だって、段階的に導入とか展開とか場面はあるんでしょうけれども、そういうことを1時間の中で完結させるためには、絶えず課題意識を教員が子どもたちに投げかける必要があるでしょうということでお話ししたので、今言われたとおりのことを言ったつもりなので、それは全ての学園、学校に徹底するように私からもお願いをします。

○松永指導課長 わかりました。

○高部教育長 ほかにいかがでしょうか。池田委員。

○池田委員 学力調査で、小学校の国語Aに関しては、東京都や全国が中ほどに山が来ているのと違って、三鷹市は最後まで右肩上がりで行われているんですけれども、こういう分布というのは非常に特異だと思うんですけれども、かなり結果がいいということなんですか。

○松永指導課長 おっしゃるとおりだと思います。こういうグラフは、正規分布から見るとちょっと外れているところかなとは思いますが、どちらかというと東京都や全国と比べるとピークが右側に寄ってきているといったところはあるのかなと思っています。

○池田委員 経年変化で見ても、国語Aはずっとこういう傾向なんですか。

○松永指導課長 そうですね。今年は特に顕著かなとは思っています。

○高部教育長 A問題は基礎的な問題といっても、毎年問題の難易度によって、大体分布というのは中央が厚くて左右に落ちる。ただ、A問題は基礎なので、基礎がしっかりできていれば、逆に右肩上がりですべての子がかなり多くなるというのはありますけれども、問題の難易度、毎年の変化という要素もかなりありますよね。

○松永指導課長 そうですね。

○高部教育長 ただ、学校ごとに見ると、市全体の平均にはいかなくて、それこそ山が二つできたりという二極化とか、そういう現象が出てきます。平均すればこういうなだらかな山だったり、右肩上がりになるんでしょうけれども。よろしいですか。

○池田委員 はい。

○高部教育長 ほかにいかがでしょうか。須藤委員。

○須藤委員 学力調査なんですが、学校によっては、中学校の数学で非常に伸びている学校もあると思うんですね。先週五中を訪問させていただきましたが、実際今日の報告を見させていただいて、非常に伸びたという結果がわかったんですが、そういったところで、取り組みの内容に関して横展開で、こういった取り組みが結果につながったというような共有というのは、実際現場でされているんでしょうか。

○高部教育長 指導課長。

○松永指導課長 特に教科の指導ということで言うと、学園研究というよりも、三鷹市の教育研究会、鷹教研と呼んでいますけれども、そこで教科ごとに取り組んでいます。そこでは、具体的な成果が上がっている事例とか、成果が上がっている学校の授業等も見ながら、それぞれの学校で進めていることについては共有して広げていくということではやっています。

○須藤委員 ありがとうございます。

○高部教育長 鷹教研は年に何回ぐらい。

○松永指導課長 8回です。

○高部教育長 教科ごとに分かれてやっているんですね。

○松永指導課長 はい。

- 高部教育長 よろしいですか。
- 須藤委員 はい。
- 松永指導課長 うち1回は、講演会をやらせていただいています。
- 高部教育長 全体のね。
- 松永指導課長 はい。
- 高部教育長 ほかにいかがでしょうか。畑谷委員。
- 畑谷委員 図書館のところで教えていただきたいと思います。10月9日と11月13日のところで、母親学級図書館利用法紹介事業というのがあるんですけども、これは母親学級ということは、まだ乳幼児の親御さんを対象にしているんですか。
- 高部教育長 図書館長。
- 田中図書館長 母親学級ですので、今まさに妊娠をされている方々です。
- 畑谷委員 妊娠をされている。
- 田中図書館長 はい。妊娠されている方に、図書館の利用法と、三鷹でも今取り組んでいるブックスタート事業のご紹介等をあわせてして、育児の中で図書館をどうやって利用できるかということ、また、絵本が子どもにどういう影響を与えるかということ、リーフレットと、実際に司書がいて、こういう絵本があったりすることと、実際に妊婦の方、妊娠されている方が図書館に行くところという実用書とかもありますよということも含めて、それから、おはなし会が毎週水曜日にあるので、プレママとして参加しませんかという呼びかけをしています。保健センターで行っている事業ですので、図書館に来ることによって横のつながりができると、地域に戻って地域の図書館で同じような状況の子育てをしている方、妊娠されている方との横のつながりをつくるということも兼ねて、ご紹介をする事業を昨年度から実施しているところです。
- 畑谷委員 保健センターとの連携事業なんですか。
- 田中図書館長 そうです。
- 畑谷委員 わかりました。ありがとうございます。
- 高部教育長 これは、男性のほうは参加できないんですか。母親というと、女性だけに限るんですか。読み聞かせは男性もできますよね。
- 田中図書館長 今回母親学級を捉えたというのは、多くの参加者が来るということもあるんですけども、どうしても両親学級になると土・日の開催になるということもあって、図書館のほうも無理なく情報を提供しながら、おはなし会とかいろいろな横のつながりをつくれるタイミングはどうかということで、保健センターのほうでもプログラムの中で一番入りやすいのは母親学級ではないかという機会をいただいたので、現在は母親学級で実施をさせていただいております。
- 高部教育長 ニーズがあれば、土・日の両親学級というのもあり得るということ。
- 田中図書館長 両親学級の場合は、プログラムが結構きっちりしていて、両親に対してのプログラムになるので、あまり長く妊婦を拘束したくないということもあります。今図書館のほうで時間をいただいているのは、母親学級のほうが妊婦に影響がない中で進められるということで、平日に開催している母親学級で実施をさせていただいています。

○高部教育長 よろしいですか。

○畑谷委員 はい。ありがとうございます。

○高部教育長 ほかに。池田委員。

○池田委員 同じく図書館で、一般テーマ図書「認知症ってなんだろう？」ですとか、認知症関連展示とかされていますけれども、来館者数ですとか評判といいますか、成年後見制度を私も担当していますけれども、そういう社会での認識が広まっているところはございますか。

○高部教育長 図書館長。

○田中図書館長 認知症について、いろいろなところの図書館が取り組みをしているところで、三鷹市の図書館としては、高齢者支援課と共催する形で、テーマ図書とか展示とかで、三鷹の取り組みと認知症の理解を促進していくということで、10月を捉えて実施をさせていただいておりますが、認知症の理解を促進するような関連の本、自分自身が認知症になったときにどうするのか、また、認知症のご家族がいるときの介護の仕方とか、いろいろな多岐にわたる本を紹介させていただいて、テーマ図書にすると、多くの利用者が手にとって、それを貸し出していくというのが実績としても出てきております。

また、展示に関しては、多くの方が立ち止まって、ちょっとしたコメントとか、実際に認知症の方の話とかもパネルにしてありますので、それを見て多くの情報を得ようという方が多くいらっしゃったのかなと思います。また、パンフレット、チラシもありましたので、そういうものを持ち帰っていく姿も実際に見させていただいているので、何年も続けておりますが、今回はより多くの方に徐々に理解が促進されていくような展示になっているかなと感じております。

○高部教育長 これも、市長部局との連携事業ですか。

○田中図書館長 高齢者支援課との連携事業になっています。今回も10月20日に認知症サポーター養成講座を図書館の集会室で開催しておりますので、図書館でもそういうことの取り組みを一緒に進めているところです。

○高部教育長 よろしいですか。

○池田委員 はい。

○高部教育長 ほかにいかがでしょうか。畑谷委員。

○畑谷委員 今のテーマ図書の関連なんですけれども、児童テーマ図書で「みたかだいすき」とあるんですけれども、これはどのような本の紹介になるのでしょうか。

○高部教育長 図書館長。

○田中図書館長 テーマ図書のタイトルが合致しているかというところは課題があるんですけども、三鷹にゆかりのある児童作家とか絵本作家の方の本を紹介するんですけども、子どもたちに向けて三鷹にゆかりのあるというテーマ図書のタイトルにすると、理解が深まらないだろうということで、平仮名で「みたかだいすき」といったときに、何だろうと思わせる設定にいたしました。

○畑谷委員 そのままだと、「みたかだいすき」って何だろうと思いましたので。

○田中図書館長 それって何だろうと思わせるようなタイトルにして、興味を引くとい

うところで、児童図書の担当のほうもテーマ図書のタイトルについてはかなり苦慮しながら設定をさせていただいて、ご紹介をさせていただいているところです。

○畑谷委員 わかりました。すごく目は引くと思いました。ありがとうございました。

○高部教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは日程第2 教育長報告を終わります。

以上をもちまして平成30年第11回教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後 4時39分 閉会